



**IBARAKI TOYOPET  
RACING TEAM**

## GOODYEAR Vitz&86/BRZ Dream Cup 2017

**平木湧也選手が予選 2 番手を獲得、フロントローからのスタートに！  
燃費にやや苦しんだ決勝、それでもチーム一丸となって 5 位でゴール**



GOODYEAR Vitz&86/BRZ Dream Cup 2017

2017 年 12 月 17 日 富士スピードウェイ

6 時間耐久レース

晴れ 6 時間 (41 台出走)

予選 2 番手 / 決勝 5 位

ドライバー：平木湧也 / 平木玲次 / 松永雅弘

チーフメカニック：清水 修 (水戸千波店)

メカニック：藤咲 一仁 (アートタワー水戸店)

メカニック：宇佐美 亮司 (6 号取手店)



2017 シーズンのラストを飾る「GOOD YEAR Vitz & 86 Dream Cup」が、富士スピードウェイで 12 月 17 日に開催され、茨城トヨペットレーシングチームは平木湧也選手と平木玲次選手、そして松永雅弘選手の 3 名のドライバーで参戦となった。

今回で 7 回目となる、年末恒例の 6 時間耐久レースはピット回数の義務づけはないものの、スタートドライバーの 60 分を超える連続乗車は禁止され、給油が可能なのはスタートから 65 分後、ゴールの 10 分前まで。何よりユニークなのは、その給油はピットでなく、パドック内のガソリンスタンドで行われることだ。その間 6 分の停止が義務づけられ、なおかつ 1 回の給油は 86/BRZ の場合、250 までとされているため、燃費レース的な要素も多分に含まれている。

ちなみに満タンにできるのは予選の前までで、その段階で給油タンクは封印される。予選は A ドライバーのみ担当することとなっているが、決勝レースにガソリンを温存するため、中には早々と燃費走行を心がけたチームもあったほど。もっとも 86/BRZ の計測時間は 8 分だけとあって、純粹に一発勝負となっていた。そのワンアタックを湧也選手はしっかり決めて、予選 2 番手を獲得。「茨城トヨペットレーシング」として、今季初のフロントロースタートをもぎ取ることに成功した。

「燃費走行しているクルマに引っかかってしまって、思ったよりタイムは伸びなかったんですが、2 番手なので良かったです。今季初のフロントロー (笑)」と湧也選手。加えて、「スタートは僕が担当しますが、最初は欲を出さず、しっかり燃費を稼いでこようと思っています」と、まずは控えめに行くことを明らかに。

順位	ドライバー	チーム	タイム	ラップ
1	301	鈴木 聖行	7:14.07	204.677
2	70	平木 湧也	7:14.07	204.677
3	97	小川 龍	7:14.07	204.677
4	91	本宮 正樹	7:14.07	204.677
5	123	元島 隆	7:14.07	204.677
6	2	伊藤 健輔	7:14.07	204.677
7	224	前川 隼輔	7:14.07	204.677
8	184	石川 雅也	7:14.07	204.677
9	481	伊藤 正彦	7:14.07	204.677
10	312	松本 健郎	7:14.07	204.677
11	46	山本 健	7:14.07	204.677
12	127	南田 雅樹	7:14.07	204.677
13	61	NACHRYU	7:14.07	204.677
14	305	月島 貴	7:14.07	204.677
15	610	木島 尚徳	7:14.07	204.677
16	59	本下 康介	7:14.07	204.677



予選開始が早朝7時55分からなら、決勝のスタート進行開始も9時35分からと、やや慌ただしいのも、このレースの特徴のひとつ。スピードウェイの上空には青空が広がり、もちろん空気は冷たいものの、今シーズンの締めくくりには最高のコンディションが整えられていた。スタートはローリング方式、通常ならばコントロールライン直前から猛然と加速していくが、燃費を考慮して誰もが、ジワ〜っとアクセルを開けていく様子がなんとも新鮮に映る。

そんな中、ポールシッターだけは勝負度外視のハイペースで飛ばし、湧也選手は敢えて追うことをせず。オープニングラップは2番手をキープした「茨城トヨペットレーシング」ながら、2周目からはやはりハイペースの車両に抗うことなく、道を譲ることに。それでも10周目あたりから順位も落ち着いて、湧也選手は7番手を争う集団の中での走行になる。連続乗車の許される60分ギリギリまで走った26周目に最初のピットストップを行い、ここで玲次選手にバトンタッチ。



この間に10番手まで退くも、86/BRZ勢としては、ほぼラストまで交代を遅らせたことから40周目には2番手に復帰。その次の周、ほぼ1時間半を経過したところで最初の給油を行い、松永選手にバトンを託すとともにフロントタイヤを交換。8番手でコースインした松永選手も、ライバルがピットに入るたび順位を上げて、やがて4番手に。そして、2時間45分経過した69周目にピットに戻ってくる。本来ならば、このステイントは玲次選手の担当だったが、「思ったより燃費が伸びていない」との松永選手の指摘により、急遽作戦を切り替えて湧也選手が乗り込むことに。ここでタイヤは4本ともチェンジ。9番手でコースに戻った湧也選手は、コンスタントに2分12秒台で走り、まさに順調そのもの。92周目からはトップを走行し、さらに「ヴィッツのスリップストリームをバンバン使って、少しだけブッシュしてみました」と交代前の2周は自己ベストとなる2分8秒306さえ記していた。



そして、まもなく4時間を経過する99周目からは、再び松永選手が乗車し、タイヤのローテーションのみ行われる。6番手からまた周回を重ねること順位を上げ、122周目には再びトップに。ほぼ残り1時間となった123周目からは玲次選手の担当。フロントタイヤを交換、あとはチェッカー目指して突き進んでもらうことに。

Pos	No	Name	Team	Lap
1	70	平木/平木/松	愛媛トヨタ86	122
2	123	元嶋/小松/小	NETZ富山Racht	121
3	91	本倉/市丸	千葉県自動車協会	121
4	301	青木/北見/松	ケムティの86	120
5	312	松本/奥島	埼玉自動車大学校	120
6	305	丹羽/水野	羽村自動車フェロ	120
7	59	木下/藤田/モル	HIROTEX	119
8	97	小河/近藤	神奈川3:OTE	119
9	224	前川/上野	SYS N-SPEED	118
10	461	伊藤/佐々木/1	N中GRG	118
11	127	青田/黒石	OTG MSC	117
	117	宮田/藤本	N中GRG	117
	987	倉井/橋本	七ヶ野の4	117



5番手でのコースインとなるが、前半燃料を温存していたDTEC86Rに抜かれこの時点でのポジションは6番手。その後、前後ともライバルとの間隔は大きく、玲次選手は自身との戦いとなっており、あとは前に行く車両が何台ピットに戻るか……。しかし、それは1台のみに留まったため、5番手に上がるのが精いっぱい。それでも玲次選手はコンスタントにラップを刻み、150周を走破したところで無事チェッカーを受けることとなった。

チェッカー寸前で止める車両もあったほど、過酷なレースをトラブルなく走り続けられたことは、5位という結果を完全に満足することはできないものの、ドライバーのみならず、チームのスタッフ全員に達成感があったのは紛れもない事実。ここからしばらくオフシーズンを過ごすこととなるが、来たるシーズンにはチーム全体のさらなる飛躍が誓われることとなった。

### 平木湧也選手のコメント



「本来はスタートとゴールを僕が担当する予定だったんですが、燃費が思うように伸びなかったので、作戦を変更して中間を僕がロングで行くことになりました。他の陣営よりマージンはあったかもしれませんが、ちょっとフロントのタイヤが厳しくて、その分ペースと燃費の配分が難しくなってしまったのかもしれませんがね。それでも、去年よりいいレース運びができましたし、一時はトップも走れたのは良かったと思います。今年最後のレースをこういう形で締めくくれたので、来年はもっといい順位でレースしたいですね」

### 平木玲次選手のコメント



「昨年の兄に続いて、今年は僕がヤングドライバー賞をいただきました。最後のスティントは僕が担当して、燃費的にはちょうど使い切る感じでしたが、1回目のスティントより燃費が良くなって、ペースを上げられなかったのがちょっと残念です。全開で走るレースではないので、こういうレースは初めてということで燃費走行には苦労したんですが、松永さんや兄にいろいろ教わって、なんとかステップ・バイ・ステップで、ちょっとずつ形になってきた感じでした。僕にとっては実りあるレースになったと思います」

### 松永雅弘選手のコメント



「ちょっとレースの組み立て方が悪かったかもしれませんね。いい状態で僕とか玲次が走らないと、ラップタイムも燃費も稼げないし。タイヤの厳しい状況で、あえて湧也に行かせるとかしないと、タイム差が広がってしまう。やっぱり玲次と僕には経験不足がありました、このクルマには乗っていないから。前にいるのは普段から乗っているドライバーばかりなので、タイムも出せて燃費も稼げたんでしょう。だから、トータル的には、今の順位が僕らの実力。でも、玲次はこういうレースを初めて体験して、すごく頑張っていたと思うし、今後の成長にもつながるでしょう。それにメカニックもしっかり仕事をしてくれて、彼らには間違いなく達成感もあるはず。みんながみんな、楽しめたレースだと思いますよ」

## チーム監督のコメント ～石川 一郎 (FUN TO DRIVE 推進グループ) ～



今シーズン最後のレース「GOOD YEAR Vitz & 86/BRZ Dream Cup 6時間耐久レース」が富士スピードウェイで行われ、「茨城トヨペットレーシング」は予選2番手を獲得。決勝レースでは一時トップも走行しましたが5位でフィニッシュとなりました。ご支援、ご声援いただきました皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。今大会は、序盤から燃費が想定していたより伸びなかったことと、タイヤの摩耗が早かったこともあり厳しい戦いとなりましたが、レース中盤で作戦を変更するなどチームスタッフ全員で協力しレースを楽しみながら、しっかり完走することができました。一時はトップだっただけに、5位入賞という結果は決して満足いくものではありませんが、チームとしてもドライバーとしても成長が垣間見えた最終戦となりました。今期は、多くの課題を見つけることができました。チームマネージャーとして学んだ事をしっかり振り返り、課題克服に向けて取り組むべき事を明確にし、より質の高いレースが出来る様にしていきたいと思っておりますので、今後とも変わらぬご声援、ご支援賜りますよう宜しくお願いいたします。

## チーフメカニックのコメント ～清水 修 (水戸千波店) ～



二週続けての富士入りで「GOOD YEAR Vitz&86/BRZ Dream Cup」にチーフメカとして参戦して参りました。派遣に当り、本社・店舗スタッフの皆様には多大なる感謝を申し上げます。先週までスプリント用としてレースを戦っていた車両とタイヤで6時間を戦う。昨年も経験していましたが簡単な事ではありませんでした。スタッフ全員の動きがタイムに直結しますのでピット作業でのミスは許されませんし、勿論車両トラブルなんて論外。結果として大きなミスやトラブル無くレースを終えることが出来ましたが残念ながら表彰台は叶いませんでした。来シーズンに向け更なる作業の効率化を図り表彰台が狙える体制作りにも励みたいと思っております。長かった今シーズンの応援ありがとうございました。チームは来年度を見据えた活動を初めていますので引き続き応援を宜しくお願い致します。

## メカニックのコメント ～藤咲 一仁 (アートタワー水戸店) ～



今回、レースメカニックとしてチームに参加させていただいて、ドライバー、チームスタッフの皆様、また忙しい中でレースに送り出していただいた店舗の皆様にはとても感謝しております。ありがとうございます。6時間耐久という事でトラブルなく走り切れる様に正確な整備、メンテナンスが求められました。大変ではありましたが無事に完走した時にはとても感動しました。普段の仕事からはなかなか経験できない事が多くとても良い経験になりました。是非この経験を沢山のスタッフの方に経験してもらいたいと思っておりますし、さらにレース活動が盛り上がってほしいと思います。ありがとうございました。

## メカニックのコメント ～宇佐美 亮司 (6号取手店) ～



今回レースにメカニックとして参加させていただくにあたり、店舗スタッフの皆様にご協力いただきありがとうございます。また何もわからない私に丁寧に教えてくださったメンバーのみなさんありがとうございました。モータースポーツにここまでしっかり関わったのはとてもいい経験になりました。知らないことばかりでとても楽しかったです。また今回タイヤマネジメントが中心でしたが、こんなにもシビアに、細かく調整をして行くことに驚きました。多くのスタッフにも是非経験してもらえたらと思います！これからも盛り上げていきましょう。ありがとうございました。